

# 日米草の根交流コーディネーター 派遣プログラム

Japan Outreach Initiative

第1期-第3期  
活動報告

# Japan Outreach Initiative



# 日米草の根交流コーディネーター 派遣プログラム

Japan Outreach Initiative

第1期 - 第3期  
活動報告

# Japan Outreach Initiative



## 目 次

---

所長メッセージ	3
JOI 概観	4
これまでの派遣実績	5
JOI 派遣先マップ	6
活動報告	7
①小阪田佳子　　ノースカロライナ州シャーロット	7
②倉辻厚子　　テネシー州マーフリースポロ	10
③久田かおり　　アラバマ州バーミンガム	13
④鈴木丈夫　　アーカンソー州リトルロック	16
⑤徳田淳子　　ミシシッピ州クリントン	19
⑥高橋祐子　　ジョージア州アトランタ	23
⑦福原くみこ　　ケンタッキー州レキシントン	25
⑧横野由起子　　オクラホマ州タルサ	29
コーディネーター募集要項	33
ジャパンファウンデーション ボランティア制度	34

# 所長メッセージ



国際交流基金理事  
日米センター所長  
糸田英哉

国際交流基金日米センター（The Japan Foundation Center for Global Partnership / CGP）は、日米関係をより緊密にし、両国の協力により国際社会へ貢献することを目的として、1991年4月に国際交流基金の中に設立されました。日米センターの事業分野は大きく二つに分けられます。一つは、日米両国の専門家が共同で行う調査研究や知的対話への支援を行う知的交流事業です。もう一つは、両国の各界各層の人々間の相互理解とコミュニケーションの促進を支援する地域・草の根交流事業です。

日米センターでは、後者の地域・草の根交流事業の一環として、2002年より、日米草の根交流コーディネーター派遣（Japan Outreach Initiative / JOI）を実施しています。これは、日本との交流の機会が比較的少ない米国の南部地域における日本理解や地域に根ざした日米交流の促進、さらに、交流の担い手の育成を目的とする事業です。これまで米国の非営利団体ローラシアン協会（The Laurasian Institution / TLI）と共同で実施しています。

日本から米国へ派遣されるコーディネーターは、大学や日米協会をはじめとする地域交流活動の拠点に配置されます。そして、2年間にわたり、ボランティアとして学校やコミュニティで、日本の文化、社会、生活、日本語に関する知識や情報を提供するなど、様々な活動を展開します。コーディネーターは年1回、1月を締め切りとして公募しています。

JOIでは、2002年度の第1期コーディネーター3名の派遣を皮切りに、2003年度に第2期2名、2004年度に第3期3名、2005年度に第4期3名を派遣してまいりました。本書は、このうち第1期から第3期のコーディネーター8名による活動報告を取りまとめたものです。応募の動機や、派遣先地域での活動内容、また今後の展望について、コーディネーター自身の執筆を通じて、JOIを具体的に紹介する内容となっています。本報告書によって、JOIの内容と成果をより多くの方々に分かち合ってもらえることを期待します。

本プログラムは、企画・運営上のパートナーであるローラシアン協会、そしてコーディネーターが派遣される地域の日本総領事館を始めとする多くの関係団体のご協力により、継続実施されています。この場を借りて、関係者の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、引き続きご指導・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2006年3月

## ●目的

- ・ 日本と交流の機会が比較的少ない米国南部地域における対日理解の喚起や日本理解の促進
- ・ 草の根交流の担い手育成

## ●実施体制

主催：国際交流基金日米センター

The Japan Foundation Center for Global Partnership

運営：ローラシアン協会（米国の非営利民間団体）

The Laurasian Institution

## ●この報告書で登場する主な関連用語

- ・ コーディネーター  
日本から米国南部地域へ2年間派遣される者。現地では日本に関するプレゼンテーションや、各種イベントの企画・運営、派遣先機関での事務等を担う。
- ・ サイト  
コーディネーターの派遣先機関。米国南部地域で、日米交流や国際交流の分野で活動する民間非営利団体（NPO）や大学が多い。
- ・ スーパーバイザー  
派遣先機関におけるコーディネーター受け入れ担当者。コーディネーターの仕事を指示・監督する。派遣先機関の中堅スタッフや大学教授が多い。

## ●2年間のプログラムの流れ（第3期の例）

2004年	1～2月	コーディネーターとサイトの募集・選考
	5月	コーディネーター渡米前オリエンテーション
	7～8月	渡米、夏季研修会、活動開始
	10月	秋季研修会
2005年	7～8月	夏季研修会
2006年	8月	活動終了、帰国

# これまでの派遣実績

## ●第1期（2002年8月～2004年7月）

- (1) ノースカロライナ州シャーロット
- (2) 小阪田佳子
- (3) Southeast Origami, Smith Academy

- 
- (1) テネシー州マーフリーズボロ
  - (2) 倉辻厚子
  - (3) Japan-U.S. Program of Middle Tennessee State University

- 
- (1) アラバマ州バーミンガム
  - (2) 久田かおり
  - (3) The Japan-America Society of Alabama

## ●第2期（2003年8月～2005年7月）

- (1) アーカンソー州リトルロック
- (2) 鈴木丈夫
- (3) Arkansas International Center, University of Arkansas at Little Rock  
Japan America Society of Arkansas

- 
- (1) ミシシッピ州クリントン
  - (2) 徳田淳子
  - (3) Mississippi College, Japan America Society of Mississippi

## ●第3期（2004年8月～2006年7月）

- (1) ジョージア州アトランタ
- (2) 高橋祐子
- (3) The Japan-America Society of Georgia

- 
- (1) ケンタッキー州レキシントン
  - (2) 福原くみこ
  - (3) Japan/America Society of Kentucky

- 
- (1) オクラホマ州タルサ
  - (2) 横野由起子
  - (3) Tulsa Global Alliance, Oklahoma Institute for Teaching East Asia

## ●第4期（2005年8月～2007年7月）

- (1) ルイジアナ州シュリヴポート
- (2) 田中美樹
- (3) Multicultural Center of the South

- 
- (1) サウスカロライナ州コンウェイ
  - (2) 村田有紀子
  - (3) Coastal Carolina University

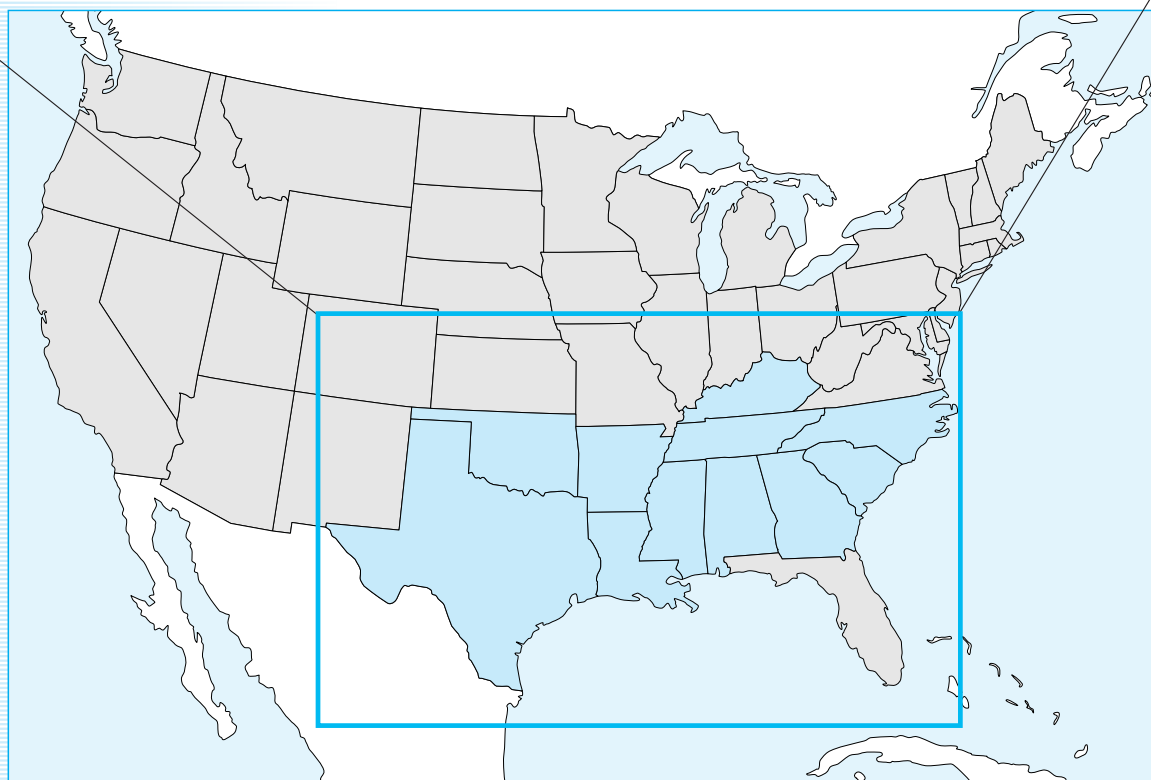
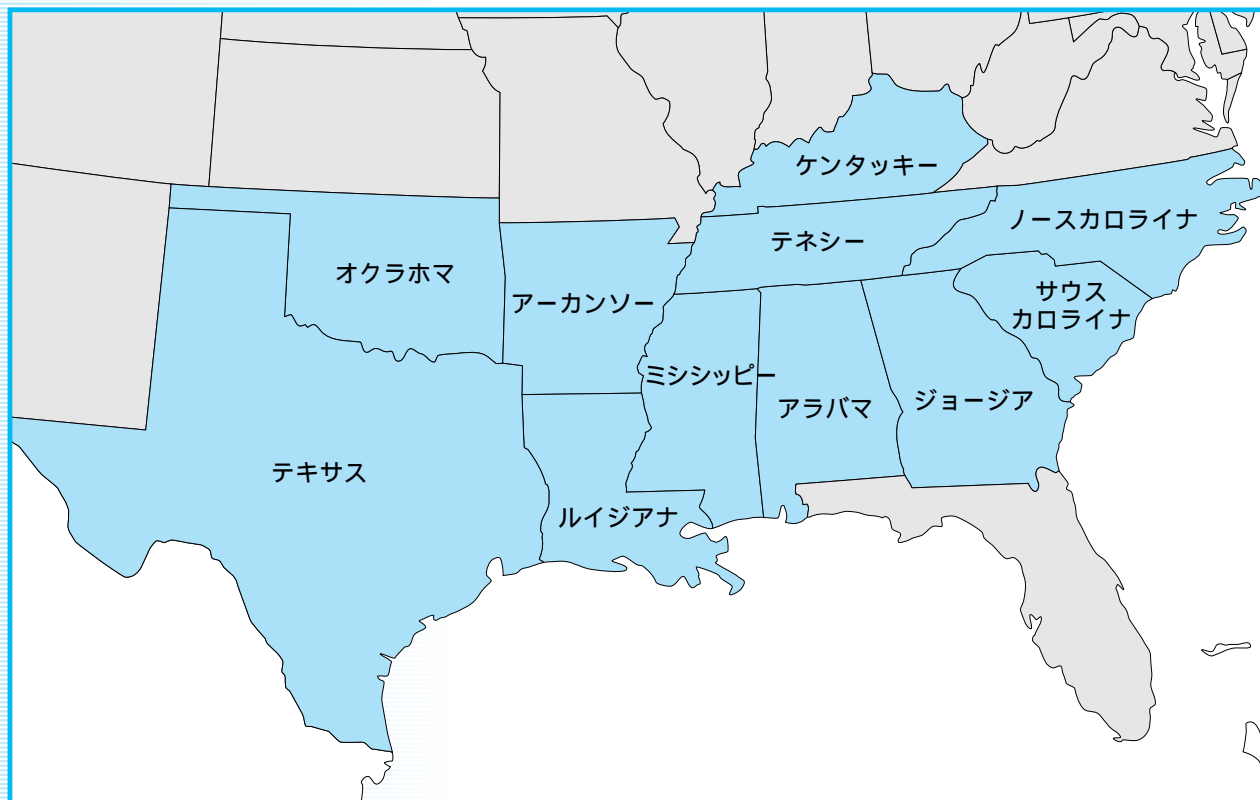
- 
- (1) テキサス州ダラス/フォートワース
  - (2) 安藤良子
  - (3) Japan-America Society of Dallas/Fort Worth

凡例：(1) 派遣先地域、(2) コーディネーター、(3) サイト

第4期コーディネーターは着任後1年未満であるため、今回の報告書には寄稿いたしません。

# JOI 派遣先マップ

●着色されているのは、これまでにコーディネーターが派遣された州です。



# 活動報告

## 1

小阪田佳子——ノースカロライナ州シャーロット  
第1期コーディネーター

派遣期間	2002年8月－2004年7月
派遣先機関	サウスイースト・オリガミ Southeast Origami 住所：P.O. Box 25 73, Charlotte, NC 28247 Tel：704-375-3692 URL：www.us-japan.org/jascharlotte/origami_mission.html
	スミスアカデミー Smith Academy 住所：1600 Tyvola Road, Charlotte, NC 28210 Tel：980-343-5815 URL：www.cms.k12.nc.us/allschools/smith/
スーパーバイザー	Mr. Jonathan Baxter, Creative Director, Southeast Origami Ms. Mayako Karakisawa, Lead Teacher Japanese Language Program, Smith Academy
コーディネーターとしての主な活動	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地元の学校やコミュニティセンターでの日本文化や日本語に関するプレゼンテーション</li><li>・ After School Enrichment Programの一環として地元の学校で折り紙講習</li><li>・ シャーロット・ガストニア地区日本語教師会が企画</li><li>・ 運営する日本関連の活動やイベントの手伝い</li><li>・ スミスアカデミーの日本語イマージョンプログラムにおける日々の仕事の手伝い</li></ul>

### ●きっかけ

日本語教師として様々な国から来た日本語学習者に接し、彼らの文化に触れることで自分のルーツである日本を再認識した私は、文化交流を促進できるような仕事に就きたいと思っていました。渡米経験がなかったこともあり、アメリカを肌で感じながら今までの経験が生かせる良い機会と思ってJOIプログラムに応募しました。

### ●現地での活動

私が派遣されたのは、ノースカロライナ州シャーロット市にある、スミスアカデミーという公立の学校とサウスイースト・オリガミという非営利団体でした。スミスアカデミーには、日本語のイマージョン（学習中の言語を使って学校生活を行いながらその言語を習得する教育法）プログラムがあり、幼稚園から中学校までのいろいろな国籍の子供達が、算数や社会などほとんどの教科を日本語で学習しています。スミスアカデミーには日本語だけでなく、ドイツ語やフランス語のイマージョンプ



## 2年間の流れ

### 2002年

- 春 東京オリエンテーション
- 夏 渡米  
夏季研修
- 秋 秋季研修  
この頃よりアメリカ人・日本人学生の友好を図るためのJapan Clubを定期的開催
- 冬 New Year's Dayの企画・運営の手伝い

### 2003年

- 春 Japan Dayの企画・運営の手伝い
- 夏 3週間のIntensive Course “Japanese for Kids”の企画・運営  
夏季研修
- 秋 この頃より折り紙や日本文化に関するプレゼンテーションを定期的実施
- 冬 Japan Bowlの企画・運営の手伝い

### 2004年

- 春 子供文化祭の企画・運営の手伝い
- 夏 任期終了

ログラムもあるので、学校内ではいろいろな言語が飛び交い、とても興味深い学習環境でした。また、スミスアカデミーの日本語イマージョンプログラムの先生方を中心に、シャーロット・ガストニア地区日本語教師会が結成されており、日本関連の様々な活動やイベントが企画・運営されています。

サウスイースト・オリガミは、折り紙を地域に浸透させることを目的として、地元の学校やコミュニティセンターで折り紙に関するプレゼンテーションをしたり、折り紙作品を各地域に展示するといった活動とともに、地元の学校のカリキュラムに折り紙を取り入れることを試みるなど、常に折り紙の新しい可能性を追求している団体です。Origamiという英語表記が定着してきているように、折り紙という文化は日本という枠を越え国際的になってきているのを目の当たりにできる環境で、「鶴」や「かぶと」しか折れなかった私には目からうろこが落ちる思いでした。

### ●将来へむけて

日本に帰ると、米国で過ごした2年間で現実味なく私の中に存在しています。しかし、アメリカでお世話になったホストファミリーから届いた絵葉書や、アメリカで知り合った人達からのEメールを読むと、米国での思い出が私の中で泉のように湧き、もう一度渡米したい心境に駆られます。

どんな小さな日本への興味でも維持していくことによって、やがて次世代にも続く日米交流になることを信じ、絶え間ない努力を続ける人達にたくさん出会いました。アメリカという地に根をはって生きている日本人が、熱意を持って日米交流・日本文化理解を促進していくことで、日本をもっと知りたい、日本に行きたいという夢を持つ現地の人が増え、お互いが心地よいコミュニティが作られていく過程を目の当たりにできました。そんな人達とともに働くことで、コンピューターなどの技術面だけでなく、文化や人種の



サウスイースト・オリガミの様子



JOI関係者と（左手前が著者）

違いを超える人のつながりが確かに存在するということが実感しました。

日常生活においても、「サザン・ホスピタリティー（南部流の手厚いもてなし）」を実践するおおらかで温かい地元の人に囲まれ、渡米経験のなかった私でもアメリカの衣食住を堪能することができました。「ちょっとスーパーに」といっても車で行かざるをえない車社会でしたが、スケールの大きなアメリカを肌で感じるいい機会になりました。

帰国後は、JOIプログラムで得た知識・経験を生かして、さらなる日本文化理解促進に努めていきたいと思っています。また、私がアメリカを去った今でも、連絡を取り合っている友人やスーパーバイザーとのつながりをこれからも大切にしていきたいです。最後に、このような機会を私に与えてくださった国際交流基金日米センターとローラシアン協会スタッフの方々に心より感謝申し上げます。

### スーパーバイザーの声

Yoshiko works very independently and understands circumstances very quickly. She adapts herself very well. She has been a great asset for our Japanese Program for our region. Yoshiko had many presentations and she had volunteered to help many activities in town. By doing that audience could feel closer to Japan and Japanese people.

- Ms. Mayako Karakisawa（レポートより抜粋）

# 活動報告

## 2

倉辻厚子——テネシー州マーフリースポロ  
第一期コーディネーター

派遣期間	2002年8月－2004年7月
派遣先機関	中部テネシー州立大学日米プログラム Japan-U.S. Program of Middle Tennessee State University 住所：P.O. Box 74, Middle Tennessee State University, Murfreesboro, TN, 37132 Tel：615-898-2229 URL：www.mtsu.edu/~japan/
スーパーバイザー	Dr. Kiyoshi Kawahito, Director
コーディネーターとしての主な活動	・オフィスでの事務 ・日米プログラムが主催/共催するプログラムの運営手伝い ・大学行事への協力 ・地域への日本紹介プログラム

### ●きっかけ

私のJOIはわずか数行の新聞記事から始まりました。当時、世界の最富国アメリカと最貧国ネパールに駐在員の家族として住んだ経験を背景に、公立高校の英会話講師として日本の高校生が英語を媒介に世界に視野を広げられるようにと授業を進めていました。一方で、機会があれば今度は自分自身の目的を持って異文化社会にじかに飛び込んでいきたい、でも何ができるのだろうかと思っていましたので、JOIコーディネーター募集の記事に惹きつけられてしまいました。

### ●現地での活動

テネシー州は87%の人が州内で一生を過ごすと言われるほど住みやすい土地柄ですが、反面、他の文化や価値観に無関心になりがちです。州の中心に位置するマーフリースポロは中部テネシー州立大学(MTSU)の学生2万人を擁する人口6万人の大学町で、1980年代に隣接のスマーナ市に日本の自動車産業が進出して、日本との関わりが生まれました。

「日米プログラム」はMTSU経済学部の川人清教授がダイレクターを兼任され、私はフルタイムアシスタントとして派遣されました。規模にしては目一杯の活動をしていましたので、メールによる公演チケット配布やターゲットグループを絞った参加者募集などで事務の効率化を図るようにしました。

また、地域の諸団体での日本紹介活動を担当しました。1年目は子供博物館での折り紙講習会、小学校での学校生活紹介から大学看護学部での日本のお産事情の話まで、内容も対象も多岐にわたるものになりました。

着任早々、地域在住の日本人有志の方々から思いがけずボランティア協力の申し出があり、着物ショー、日本祭りでの茶道や習字体験コーナー、大学生の日本語会話の相手など、スタッフだけでは実現できないプログラムを提供することができました。2年目は教育現場に活動先を絞り、総領事館からも支援を受けて小学校の先生向けに日本紹介の教材セットを作り、中部テネシー州地域の先生方に配布して講習会をしました。

昨今はインターネットでも情報を入手できますが、異文化理解促進には「人と人が直接出会う大切さ」を実感しました。中でも印象に残った行事は2003年の夏にシニアセンターと共催した「盆踊りファミリーダンスフェスティバル」で、1ヶ月前からボランティアが日米の踊りを教えあって交流を深め、当日は子供から学生・お年寄りまで200人以上が参加しました。フィナーレには『エレクトリックスライド』のステップで『東京音頭』を踊りました。未だに第二次世界大戦の敵国の印象を抱くお年寄りや若い日本人との「出会い」が「何か」を変えました。このイベントは日米のボランティアに引き継がれ、他国のグループも加わった地元行事となっています。

### ●将来へむけて

帰国当初はJOIの経験がどのように今後活かされるのか見当がつかず、寂しい気もしましたが、かつてボランティアをした難民センターから声が掛かり、現在は社会生活適応指導講師として、4ヶ月の日本語学習を終えたインドシナ及び条約難民の方たちに、日本に定住する上で必要な日本の社会事情や身分条項の手続きなどについて、時に通訳を介し



サマーキャンプ「お箸を使って」

## 2年間の流れ

### 2002年

- 春 東京オリエンテーション
- 夏 渡米／夏季研修  
着任・生活セットアップ  
NEK（日本語と英語の会）  
新入生歓迎会  
地元メディアでの広報  
NEK講演会  
大学の交換留学フェア参加、大学のクラスへの情報提供
- 秋 秋季研修  
日本紹介活動
- 冬 ボランティア養成活動

### 2003年

- NEK 新年会（着物ショー）  
琴演奏会  
JOI主催者の現地訪問視察  
大学の生涯学級で夜間日本語講座開講（～春）  
箏楽演奏会  
日本紹介活動
- 春 大学の国際週間行事参加（着物ショー、展示ブース）  
サザンジャパンセミナー開催  
日本紹介活動
- 夏 遠隔地域で先生方への日本紹介ワークショップ開催  
子供のサマープログラムに協力  
三味線と日本舞踊の会  
夏季研修  
総領事館文化広報部訪問  
盆踊りファミリーダンスフェスティバル共催  
交換留学生受け入れ

**秋** NEK 新入生 歓迎会  
大学の日本語クラス会話テ  
ーブルに協力(～夏)  
数学教師向け折紙を使った  
算数ワークショップ開催  
中高教師向けアジアセミナ  
ー聴講(～春)

**冬** 日本紹介活動  
中高教師向け社会科セミ  
ナー開催

### 2004 年

NEK 新年会  
大学の交換留学フェア参加  
アイヌ音楽演奏会  
交換留学生受け入れ

**春** 日本人ボランティア向け  
日本紹介ワークショップ  
開催  
小中学校教師向け日本紹  
介ワークショップ開催と  
教材配布  
大学の国際週間行事参加  
(日本まつり、展示ブース)  
日本紹介活動

**夏** 任期終了



小学校を訪問して(左端が著者)

ながら教えています。様々な事情で母国を脱出して日本に定住することになった方々が安心して生活していけるようにお手伝いする仕事を大切に思っています。

「異文化に接することで視野が広がり、互いの違いを尊重する態度が養われ、世界が誰にとってもより住みやすい場所になる」という理想が実現できるように、これからも与えられた場所でチャレンジしていきたいと思います

### スーパーバイザーの声

Having a bilingual person in the office on a fairly stable basis facilitated good communication with visitors and callers. Her presence also resulted in efficient clerical preparations of various Japan-related events( e.g., concerts, public lectures, and conferences ) Compared with a few years ago, cultural presentations before K-8 school children and equivalent audiences increased slightly in frequency and much in quality. In the process, she collected and created various materials and improved methods of presentation. She was also able to make a couple of model “ lesson plans ” for elementary school teachers.

-Dr. Kiyoshi Kawahito ( レポートより抜粋 )

# 活動報告

## 3

久田かおり——アラバマ州バーミングハム  
第1期コーディネーター

派遣期間	2002年8月－2004年7月
派遣先機関	アラバマ日米協会 The Japan America Society of Alabama 住所：500 Beacon Parkway West Birmingham AL 35209 Tel：205-943-4730 URL：www.jasaweb.net
スーパーバイザー	Ms. Charlotte Blackmon President of Institute of Language and Culture, Clanton, AL Ms. Teresa Wilson Former Executive Director of the Japan- America Society of Alabama
コーディネーターとしての主な活動	・ Japan in a Suitcase 企画・運営 ・ 地域での交流プログラム企画 ・ “Alabama Guide”（アラバマ州ガイドブック）作成 ・ アラバマ日米協会主催プログラムのサポート ・ 姉妹都市交流事業のサポート

### ●きっかけ

20代半ばにボランティア日本語教師として9ヶ月間オーストラリアで過ごし、帰国後、本格的に日本語の勉強をして、日本語学校に就職しました。それでも、いつかもう一度海外へ出て日本語を教えたいとずっと思っていました。そんな時、インターネットでJOIプログラムのことを知り、オーストラリアでの経験や日本語学校での経験を生かして海外で働けるまたとないチャンスだと思い、すぐに応募しました。

### ●現地での活動

私が派遣されたアラバマ日米協会（JASA）は、全米に約40のネットワークを持つ日米協会の一員で、日米交流促進を目的に活動しています。具体的には、日本についての情報を提供したり、学校やコミュニティで日本文化紹介のイベントを行ったりしています。また姉妹都市交流にも関わっており、様々なプログラムの手伝いもしています。

そこでの私の仕事は大きく分けて、スタッフとしての一般事務と、コーディネーターとしてのプログラムの企画・運営の二つでした。スーパーバイザーが小学校向けの語学プログラムを開発していたことから、私も小学校向けの“Japan in a Suitcase”というプログラムを立ち上げ、そこから活動の場をコミュニティ全体へと広げていきました。

## 2年間の流れ

### 2002年

- 春 東京オリエンテーション
- 夏 渡米  
夏季研修
- 秋 秋季研修  
Japan in a Suitcase 開始
- 冬 Small World プログラム  
(日本祭り、小学校7校参加)

### 2003年

- 春 SAKURA Festival  
JASA Annual Dinner  
Spring Fling
- 夏 夏季研修
- 秋 English Class 開始  
Japanese Festival
- 冬 Alabama Guide 作成開始  
JASA Open House

### 2004年

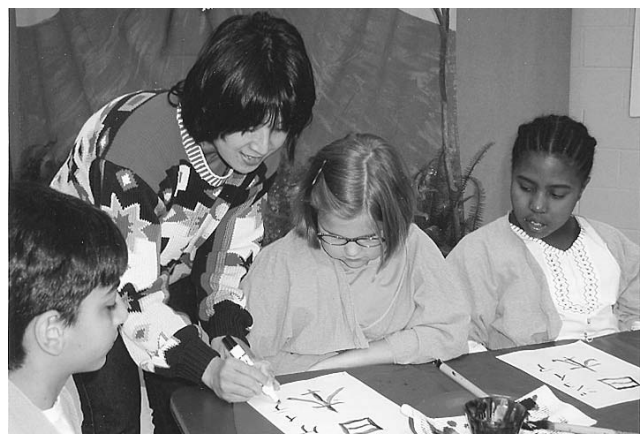
- 春 SAKURA Festival  
JASA Annual Dinner  
Spring Fling
- 夏 帰国

小学校では、特にリクエストが無い限り、衣食住と子供の遊びという4つのテーマに絞って文化紹介をしました。アラバマは南米からの移民が多いため、学校ではスペイン語が重視され、日本語を取り入れている学校は数えるほどしかありません。そのせいか、先生ですら日本がどこにあるか知らなかったり、日本にはテレビもないと思っている子供がいたりなど、日本の情報がまだまだ足りないことを実感しました。しかしその一方で、日本のアニメなどのサブカルチャーが人気で、そこから日本に興味を持ったという学生たちも少なくありませんでした。

学校以外では、教会や公共施設でイベントを行ったり、ビジネスマン向けにマナー講座や日本語講座、法律セミナーなどを開催しました。アラバマは製鉄業が盛んなことから、自動車関連会社を中心に50以上の日本企業が進出しています。必然的に日本語や日本のビジネスマナーを学ぶ必要性が生じ、日米協会にもセミナーの依頼が多く寄せられました。



けんだまに挑戦

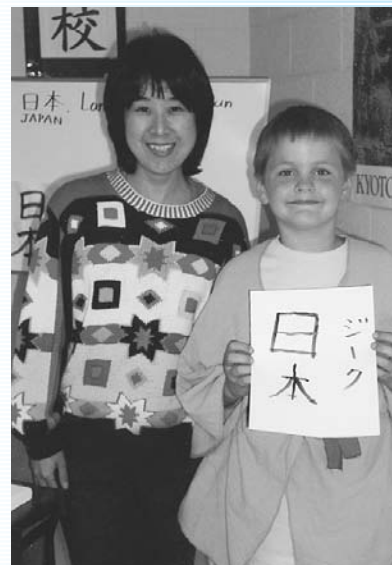


書道を教える筆者

JOIの大きな目的である草の根交流の定着という点では、まず、主婦向けの英会話教室と子ども向けのサマーキャンプを通して、日本人のネットワークを広げました。そして、学校プログラムや地域のイベントをする度に、駐在員の家族の方々にボランティアとしてお手伝いをお願いしました。そのお陰で、2年目には日本人ボランティアグループができ、日本紹介プログラムを引き継いでいただくことができました。

### ●将来へむけて

帰国後は以前の職場（日本語学校）に戻り、日本語クラスと日本語教師養成講座を担当しています。養成講座からひとりでも多くの修了生が海外に出て活躍してくれることを願って、機会あるごとにJOIの話をしています。今後は、英語話者への日本語教育の方法についてもう少し勉強したいと思い、大学院進学も考えています。



左が筆者

### スーパーバイザーの声

Having Kaori here has helped Japan America Society of Alabama build a much stronger base for Japan-related activities in Alabama. She has helped establish and maintain a momentum in increasing the number of Japan-related activities that we regularly conduct. She has also helped establish a core of volunteers who are there to help with school and community outreach, as well as developing and leaving materials that can be readily used by others. With Kaori's influential help, we are more financially stable, with membership steadily growing (due to increased programs and benefits) which increases our revenue and enables us to continue paying staff, including a new part-time person we could have not afforded before. Kaori has helped us in many, many ways, and we really, really appreciate the JOI Program being here at this crucial time for JASA.

- Ms. Teresa Wilson (レポートより抜粋)



# 活動報告

## 4

鈴木丈夫——アーカンソー州リトルロック  
第2期コーディネーター

派遣期間	2003年8月－2005年7月
派遣先機関	アーカンソー日米協会 Japan America Society of Arkansas アーカンソー国際センター・アーカンソー大学リトル ロック校 Arkansas International Center, University of Arkansas at Little Rock 住所：2801 S. University Ave. Little Rock, AR 72204-1099 Tel：501-569-3515 / 501-912-2187 / 501-352-2024 URL：www.JASAR.org, www.uair.edu
スーパーバイザー	Dr. Walter Nunn Director, Arkansas International Center, University of Arkansas at Little Rock
コーディネーター としての主な活動	・幼稚園から大学レベルまでの教育施設、地域のコミュニ ニティーでの日本紹介プログラム ・アーカンソー経済局のサポート ・日本関係イベントの計画と実施 ・地元教育関係者の日本に関するプログラムへの補佐 ・アーカンソー日米協会の普及・促進

### ●きっかけ

以前より非営利組織に興味があったことと、その非営利組織で仕事ができるということでJOIプログラムに応募しました。そして、アーカンソー州立大学リトルロック校内に事務所を構えるアーカンソー日米協会に赴任することになりました。

### ●現地での活動

活動の内容は非常に多岐にわたり、小学校から大学レベルまでの教室を訪問しての日本文化の紹介や日本語のレッスン、日本人留学生のお世話、地元ビジネスマンからの相談対応、州内で開催されるインターナショナルフェスティバルなどへの参加、翻訳、日本からアーカンソーに関する情報提供依頼の対応への対応など多岐に渡ります。

アーカンソーは州のニックネームをナチュラル・ステイトというほど、非常に自然に恵まれ、森や河の美しい州です。また、アーカンソーにはウォルマート（全米チェーン展開の大型量販店）の本社があり、ダグラス・マッカーサー将軍の生誕地、クリントン前アメリカ大統領のお膝元としても有名です。州の人口は約270万人で、州都のリトルロック市から車で45分ほど走ったところにはホットスプリングス市があり、良質の

天然の温泉も楽しめます。歴史的には第2次世界大戦中に全米最大規模の日本人強制収容所が位置していた州でもあり、日本とのつながりも深いところと言えます。ただ、アーカンソー州全体に占めるアジア人の人口はわずか0.8%と極めて少なく、日本人や日本に関する情報も限られており、活動の意義を日々感じさせられています。アーカンザン（アーカンソー人）は、非常に正直でオープンな人が多く、仕事やプライベートを含め、随所に人々の温もりや優しさを感じることができます。



高校でのプレゼンテーション



小学校を訪問して（右端が著者）

## 2年間の流れ

### 2002年

春 東京オリエンテーション

夏 渡米

夏季研修

リトルロック市長表敬訪問

アーカンソー州経済開発局訪問

アーカンソー日米協会幹事会参加

秋 リトルロック国際フェスタ参加

リトルロック中央高校にて授業

日本からの交換留学生の補佐

ロータリークラブ交流事業

アーカンソー大学リトルロック校国際フェスタ参加

ギブス国際小学校訪問

ホットスプリング市姉妹都市交流事業補佐・通訳

冬 アーカンソー州運転筆記試験翻訳

ベイツビル市立学校訪問

パーソンヒル小学校訪問

### 2004年

春 アーカンソー子供病院通訳

リトルロック市立中央図書館にて講演会

アーカンソー日米協会ホームページ製作

ボブ・ホワイティング氏講演会

ニューポート市立高校訪問

プラスキー高校訪問

夏 夏季研修  
日米協会会員のための日本語レッスン

秋 リトルロック国際フェスタ参加  
ニューポート市図書館にて講演会  
日本人強制収容所に関するシンポジウムの補佐

冬

#### 2005年

春 アーカンソー大学での日本語スピーチコンテストでの審査員  
ドキュメンタリーフィルム「CASTAWAY」アーカンソーツアー企画・実施  
ニューオーリンズ総領事着任パーティー企画・実施

夏 任期終了

#### ●将来へむけて

今後も、毎日多くのことを学びながら、自分の持ちうる限りのネットワークを活かして、アーカンソー州に日本に関する情報を少しでも多く提供し、アーカンソーと日本の架け橋になりたいと考えています。

#### スーパーバイザーの声

Takeo greatly energized the activities of the Japan-America Society and expanded its reach beyond the Little Rock area. He also provided a lot of information to Arkansas schools about Japan. He also provided numerous services on his own initiative, such as interpreting the Arkansas Drivers' Manual, helping Japanese high school students adjust to Arkansas schools at the beginning of the year, and teaching an informal six-week Japanese language class. Takeo is one of the finest employees I've ever had, and he has become a good friend whose company I always enjoy.

- Dr. Walter Nunn (レポートより抜粋)

# 活動報告

## 5

徳田淳子——ミシシッピ州クリントン  
第2期コーディネーター

派遣期間	2003年8月－2005年7月
派遣先機関	ミシシッピ・カレッジ Mississippi College 住所：200 South Capitol St. Clinton, MS 39058 Tel：601-925-3400 (Foreign Languages Department) URL：www.mc.edu
スーパーバイザー	Dr. Deborah T. Pierce Dean of the School of Humanities and Social Sciences Chair of Foreign Languages Department
コーディネーターとしての主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学内で希望者を対象とした日本語のクラスの実施（大学生の他、一般の希望者も参加可能）</li> <li>・ 大学内の各学部でのプレゼンテーションの実施（文化、文学、音楽、政治など様々な日本に関するテーマ）</li> <li>・ ミシシッピ日米協会（JASMS）によって主催される活動のサポート</li> <li>・ 地元の公立学校訪問、日本文化の普及活動の実施</li> <li>・ 地域団体での日本に関するプレゼンテーションの実施</li> <li>・ 日本に関するワークショップの実施</li> <li>・ 学内での文化イベントの実施</li> <li>・ 地元日系企業への貢献（通訳、翻訳、アメリカ人従業員のための日本語クラスの開講）</li> </ul>

### ●きっかけ

JOIプログラムに参加する前の数年間、米国とメキシコで日本語教育に携わっていたため、これまで日本という国とほとんど接点のなかった方々に日本の文化や習慣を草の根レベルで紹介するというこのJOIの活動にはとても大きな可能性とやりがいを感じ、応募するに至りました。

### ●現地での活動

私が派遣されたのは、ミシシッピ州の州都ジャクソンから30km程西に位置するクリントンという人口24,000人の小さな町にある、ミシシッピ・カレッジという私立大学です。

以前から日本との交流が全くなかったというわけではないものの、ミシシッピ州と日本との関係が強まったのはここ最近のことです。米国最大の日産自動車の工場がミシシッピ州のケントンに建設されたこともあり、この2～3年で日系企業の数が増え、それに伴いミシシッピ日米協会も発足されました。また2003年春には日系企業の子供達を対象とした補習校も発足されるなど、徐々にではありますが日本人に対する受け入れ態勢は強化されつつあります。以前に比べると日本の文化や習慣、また

## 2年間の流れ

### 2003年

春 東京オリエンテーション

夏 渡米

夏季研修

ロータリークラブで初のプレゼンテーション

陶芸展開催(国際交流基金、MC、JASMIS主催)

Mississippi College内で無料の日本語のクラスを開講

(2005年5月まで4学期間を通して実施)

秋 秋季研修

MC内でのプレゼンテーション開始

日系企業での通訳としての日本人出張者補佐業務(以後定期的に日本から出向者が来る度に補助)

冬 JASMIS新年会 準備

ミシシッピー州の小中学校の教師を対象としたワークショップを実施

ワークショップを通して多くの教員と知り合い、学校訪問の数が増える

地元日系企業内でアメリカ人従業員を対象とした日本語のクラスを開講

### 2004年

春 地元団体でのプレゼンテーション、学校訪問、MCでのプレゼンテーション(以降2005年任期終了まで定期的に続く)

日本語に対する地域住民の関心も高まり、日本料理レストランもかなりの人気を博しています。温暖な気候と同様に、地域の方々はとても大らかで温かく、南部独特の手厚いもてなしを日々身近に感じました。

JOIコーディネーターとしての2年間、様々な活動に携わってきました。キャンパス内では日本語のクラスを中心に、各学部からの依頼に伴ったプレゼンテーションを数多く行ってきました。日本の伝統音楽から高齢化社会、また日本文学に至るまでテーマは様々でしたが、プレゼンテーションをする度に私自身も日本という国の文化や制度を見つめ直す良い機会を与えて頂いたと感じています。また地域の方々を対象とした文化活動では、多くの方々とは知り合い、交流を深めることができました。

ミシシッピー州ではまず日産自動車の工場設立を機に、ビジネスや経済効果を通して、地元住民の間での日本に対する興味や関心が高まり始めましたが、2003年の夏にJOIコーディネーターが派遣されたことは、これまで日本と全く接点のなかった子供達と日本をつなぐ大きな役割を果たしました。学校訪問は、まさに草の根レベルで子供達に日本の文化や伝統を伝えることができる、とても貴重な活動の一つであり、教育プログラムとして大変高い評価を得ました。学校訪問のたびに、とても物珍しそうに、興味深い眼差しで私の話しに耳を傾けてくれた子供達の姿は、未だ目に焼きついています。また、地域での文化交流活動として毎年Foreign Languages Department主催で行われているインターナショナル・コーヒーハウスのテーマとして2005年には日本が選ばれ、“An Evening in Japan”は大盛況のうちに幕を閉じました。2年間の総仕上げとも言える思いで深い大イベントになり、その時の感動は今も鮮明に覚えています。日本人の音楽家の方々、また日系企業の子供達やお母さん方がボランティアでコンサートに参加して下さい、地元の日本人一丸となって音楽を通して日本を紹介することができました。日本人にとっては文化の一部として幼い頃から親しまれている童謡や懐かしのメロディーを歌や楽器で披露し、西洋音楽とは違う、日本独特のメロディーを通して、「日本」という国の文化を十分に伝えることができたと思います。日本の童謡が日本人のみならず地元住民の心をもつかみ、多くの方々に感動を与えることができたこのイベントは、2年間の活動を通して大変印象深いものとなりました。

このようにJOIコーディネーターとしての2年間で、数え切れない程の貴重な経験をさせて頂き、このプログラムを通して、自分自身を大きく飛躍させることができたと感じております。今2年間を振り返り、改めてこのプログラムに参加させて頂くことができた重みを感じています。

## ●将来へむけて

私がミシシッピー・カレッジに派遣される以前には、学内において日本語のクラスはもとより、各学部においても日本に対する関心は低く、日産自動車の工場がミシシッピー州に設立されたとはいえ、地元の学生達の日本に関する知識は本当に限られたものでした。ミシシッピー州に派遣された当初は、学校訪問のパンフレットを作成し各学校に配布しても、なかなかリクエストをもらえず、活動が軌道にのらないことに、とても大きな不安といらだちを感じていました。しかし2年間をかけて行ってきた草の根交流活動は実を結び、数多くの教育、文化イベントを通して、学生や地元住民の方々に日本に関する様々な情報を伝えることができました。

派遣された当初2003年の秋学期より2年間を通して行ってきた日本語のクラスは、2005年の秋学期より大学での正式な単位制のクラスとして認められ、開講されるまでに至りました。JOIの活動を通してその基盤を築くことができたことは大変光栄なことであり、それと共にJOIプログラムの秘める可能性を改めて感じさせられました。州都ジャクソン周辺にはいくつもの州立、私立大学が点在しておりますが、日本語科が正式に開講されている学校はまだ一校もなく、ミシシッピー・カレッジが日本語を開講できる初の大学となったことは、私にとっても大変喜ばしいことでもあります。今後はミシシッピー・カレッジを中心に、ジャクソン周辺の他大学とも提携を結びながら、日本語プログラムを更に発展させることが計画されています。

こうしたことを目的とし、2006年には新たなピザを取得し、今後はミシシッピー・カレッジをはじめとする地元の教育団体と直接に連携を取



子どもたちはお箸の使い方の練習が大好き

夏 夏季研修

秋 JASMIS 主催 着物ショー  
Title VIA - Grant (US  
Ministry of Education)  
MCの研修旅行参加教員を  
対象にワークショップ実施

冬 JASMIS 新年会  
Rotary Club 日本への研  
修旅行参加者を対象にワー  
クショップ実施

## 2005年

春 JASMIS Cherry Tree  
Planting 「桜の木を州庁  
舎に!」  
MC Foreign Languages  
Department 主催  
インターナショナル・コー  
ヒーハウス-Evening in  
Japan  
Title VIA - Grant (US  
Ministry of Education)  
Dr. Pierceと共に引率と  
して日本への研修旅行に参  
加

夏 Mississippi Guide作成  
任期終了



日本への研修旅行に引率者として参加（前列右端が著者）

りながら、再びミシシッピ州で日本文化普及活動に携わってゆきたいと考えています。国際交流基金日米センターとローラシアン協会のサポートによって、何もなかったミシシッピ州に新たな試みが芽生え始めました。私はこれを更に発展させることができるよう、今まで以上に努力してゆきたいと思っています。国際交流基金日米センターとローラシアン協会という二団体の力強いサポートがなくなってしまった今、多少の不安もありますが、今後は地元の教育団体と力を合わせながら、立派な日本語プログラムの基盤を作り上げることができるよう、精一杯頑張ろうと思っています。

#### スーパーバイザーの声

This has been the best experience in my professional life. Junko has greatly increased awareness of, knowledge about and appreciation for Japan by Mississippi College students, faculty, and administration. This is also true for all the communities including K-12 schools, civic organizations, JASMIS membership, and business groups with whom she met. We will begin teaching Japanese in the fall semester for credit for the first time in Mississippi College's 180-year history due to Junko's efforts.

- Dr. Deborah T. Pierce（レポートより抜粋）

# 活動報告 6

高橋 祐子 — ジョージア州アトランタ  
第3期コーディネーター

派遣期間	2004年8月－2006年7月
派遣先機関	ジョージア日米協会 The Japan-America Society of Georgia 住所：3121 Maple Dr. Suite 224 Atlanta, GA 30305 Tel：404-842-1400 URL：www.us-japan.org/jasg
スーパーバイザー	Mr. Clark T. Wisenbaker Executive Director
コーディネーターとしての主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校等のコミュニティグループを対象とした文化紹介</li> <li>・ JapanFestをはじめとするJASG主催・共催イベントの企画・運営</li> <li>・ 日本語会の企画・運営</li> <li>・ APCC(アジア太平洋こども会議)のリエゾンオフィス</li> <li>・ 経理・総務を含む事務</li> </ul>

## ●きっかけ

以前の職場に届いていた国際交流基金のニュースレターでJOIプログラムについて知り、米国内の小学校での日本文化紹介活動、日本の非営利団体での仕事の経験が活かせる点が自分にぴったりだと友人達からも背中を押されて応募しました。

## ●現地での活動

活動を始めてからの数ヶ月間、覚えるべきこと、慣れなければいけないことがたくさんありましたが、最大の課題は「車で自由に動く」ということでした。片側6車線もあるハイウェイのおびたしい交通量の中を自由自在に走りまわることなど、ペーパードライバーだった私には不可能に感じられ、絶望感すら抱いていたほどです。プログラム関係者から半ば脅しともとれる「練習せよ」の指令を受け、週末に早起きをして恐々ハイウェイを運転したおかげで、ほどなく、地図を片手にどこにでも出かけられるようになりました。

受入れ団体であるジョージア日米協会がJOIコーディネーターに望んでいたのは、文化・教育部門を担当する文化コーディネーターと経理を含む事務部門を担当するオフィスマネージャーの両方の役割でした。スーパーバイザーと二人だけのオフィスであることを考えればこの期待は当然のことといえますが、郵便物の発送、書類のファイリング、会員情報の更新、理事会やイベント案内の発信や出欠確認、小切手や財務報告の作成等々、多岐にわたるオフィスマネージャーの仕事と文化コーディネーターの両立は困難ではないかと感じていました。オフィスの仕事に慣れるのに手一杯だった時期は、同期のコーディネーターから学校訪問などの報告が届くたびに、焦りを感じ、





ジョージア日米協会のオフィスにて



小学校を訪問して（中央が著者）

## 2年間の流れ

### 2004年

春 東京オリエンテーション

夏 渡米  
夏季研修  
運転のレッスン  
年次総会

秋 秋季研修  
ジャパンフェスト

冬 忘年会

### 2005年

春 ジャパンボウル/スピーチ  
コンテスト

夏 夏季研修  
年次総会  
ゴルフトーナメント  
アジア太平洋こども会議

秋 ジャパンフェスト

冬 忘年会&サイレントオー  
クション

### 2006年

春 スピーチコンテスト  
アニュアルディナー

夏 アジア太平洋こども会議  
任期終了

研修で呪文のように何十回も聞かされていた「Each site is DIFFERENT! (それぞれの派遣先は違う!)」を自分に言い聞かせたものでした。

オフィスマネージャーとしての仕事が軌道に乗ってからは、学校やその他の団体を訪問しての文化紹介を開始すると同時に、文化コーディネーターとオフィスマネージャーの立場で、また日米協会の文化教育委員会の一員として、大小のイベントの企画・運営にも携わっています。アメリカ南東部最大の日本関連イベント「ジャパンフェスト」、大学生が対象の「スピーチコンテスト」、福岡市で行われる「アジア太平洋こども会議」、1年に2度の晩餐会、サイレントオークション、ゴルフトーナメント、ワインテイasting等々、どれも日米協会にとって、重要なイベントです。2006年は、博物館、教会等の団体と協力して、これまで日米協会が開催したことのないようなイベント開催を計画しています。

### ●将来へむけて

日米協会の仕事はもちろん、他団体と共催するイベントなどを通して、たくさんのことを日々学んでいます。この経験を生かし、今後も日米間のみならず、日本と他の国との相互理解のための仕事をしたいと思っています。

### スーパーバイザーの声

Yuko is truly a seamless part of the Japan America Society of Georgia. Now, when people (including myself from an administrative and infrastructure point of view) think of the JASG, Yuko is an inextricable part of what comes to mind. The JASG is undoubtedly exponentially stronger today than it was before the JOI program.

- Mr. Clark T. Wisenbaker (レポートより抜粋)

# 活動報告 7

第3期コーディネーター  
福原くみこ——ケンタッキー州レキシントン

派遣期間	2004年8月－2006年7月
派遣先機関	ケンタッキー日米協会 Japan/America Society of Kentucky 住所：3070 Harrodsburg Rd, Lexington, KY 40503 Tel：859-224-7001 URL：www.jask.org
スーパーバイザー	Ms. Ayako Yamamoto Assistant Director
コーディネーターとしての主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Japan in a Suitcase プログラムにおける学校・コミュニティ訪問</li> <li>・日米協会会員へのJapanese Culture Club の提供（毎3ヶ月）</li> <li>・ケンタッキー州ウェルカムパケットの作成</li> <li>・日本語会話クラブの実行（毎月）</li> </ul>

## ●きっかけ

大学2回生と4回生の春に1ヶ月フロリダ州とジョージア州に滞在し、そこで出会った素晴らしいホストファミリーや友人を通して私自身アメリカに対して好印象を持ちました。その後、彼らが実際に日本を訪問したのをきっかけに、いつの日か日米の架け橋になりたいと考えるようになり、JOIプログラムに応募しました。

## ●現地での活動

“Welcome to Kentucky!” この言葉は私がケンタッキー州に到着したと同時に多くの方々から幾度となく掛けられた言葉です。

ケンタッキー州はケンタッキーダービー開催地として、サラブレッドなど名馬を育てる牧場が数多くあり、パーボンウィスキー、タバコ産業が盛んで多くの自然に囲まれた中で活動を行っています。1986年にトヨタ自動車ケンタッキー州に進出して以来、多くのアメリカ人が日系企業で働いているためか、日本に対する関心が高く、親日家の方が数多く見られます。

現在、ケンタッキー州日米協会に派遣されています。全米40ほどの日米協会・日本協会から成り立つ全米日米協会連合（National Association of Japan - America Societies / NAJAS）の一員であるケンタッキー日米協会は、1987年に日本とケンタッキー州のビジネス・文化・社会についての相互理解を深めるため、非営利・非政府機関として設立され、私はその中で教育部門を担当しています。

私の活動内容としましては、主に教育・文化関係を担当しており、小学校を訪問し、日本の紹介を行ったり、3ヶ月に一度、日米協会の会員を対

## 2年間の流れ

### 2004年

春 東京オリエンテーション

夏 渡米  
夏季研修

秋 秋季研修  
学校訪問開始

冬 学校訪問  
ジャパニーズカルチャー  
クラブ

### 2005年

春 学校訪問  
日本語会話クラブ開始  
(毎月)  
ジャパニーズカルチャー  
クラブ  
姉妹都市交流活動の手伝い

夏 夏季研修  
ケンタッキー西部地区学校  
訪問  
ジャパニーズカルチャー  
クラブ  
日本語会話クラブ (毎月)

秋 学校訪問  
ジャパニーズカルチャー  
クラブ  
日本語会話クラブ (毎月)

冬 学校訪問  
ジャパニーズカルチャー  
クラブ  
日本語会話クラブ (毎月)

### 2006年

春

夏 任期終了

象としたカルチャークラブの提供、姉妹都市交流のお手伝い、ケンタッキー州で生活される日本人の方々に向けたケンタッキー州情報冊子の作成等を手がけております。

この1年間、州内の数多くの学校やコミュニティを訪問してきました。小学2年生から6年生を対象にした小学校訪問では「日本の小学生の1日の生活」をテーマに日本の小学生の一日の生活を写したパネルサイズの写真を使って日常の生活の様子を説明したり、筆箱や下敷き、上履き、教科書等をランドセルの中に入れ、実際に生徒に披露しています。

特に「ハム太郎」の筆箱はどの学年も人気があり、多くの生徒が日本のアニメについて詳しく、日本のアニメ業界の世界進出の凄さには驚きを隠せません。

また、多くのアメリカの学校では雇われた清掃者が毎日校内を清掃したり、生徒による給食当番制が存在しないなど、私自身もアメリカと日本の教育システムの違いを学ぶことができました。また幼稚園生から小学1年生を対象にした折り紙のプレゼンテーションも好評で、折り紙で折った相撲ゲームは特に人気があります。この春からは高校生や大学生を対象としたプログラムも始め、日米協会の教育部門は成長を遂げています。

学校訪問を通して感じることは、多くの生徒や教師が「私達のために来てくれてありがとう」と感謝してくれることです。何人かの生徒がぎゅっと抱きしめてくれたり、「必ずまた戻ってきて」と言ってくれるたびに、JOIに参加して本当に良かったと感じます。

また、地方の地域に行けば、教師の自宅に一泊して翌日他の学校に訪問する機会があります。

地元の方と触れ合う機会はもちろん、多くの方から採れたての卵やとう



習字に挑戦

もろこしを頂くなど、人々の温かさ、優しさに触れることができ、毎日多くの発見と驚き、喜び、そして感謝の日々を送っています。

その他にも日米協会内では協会の会員の方を対象に3ヶ月に一度ジャパニーズカルチャークラブを行なっています。これまでに、ギフトギビング・日本の春祭り・日本の夏・食欲の秋・書道と題して日本文化を紹介してきました。

約1時間のプレゼンテーションの後は、実際に参加者にプレゼントを日本式に包装する体験や手巻き寿司の体験をしていただいたりと、回を重ねるごとにジャパニーズカルチャークラブは大きく成長しています。

参加者の多くは日系企業で働いていたり、日本に出張する機会がある方で、日本のしきたりやビジネスマナーを学ぶために参加される方が大多数を占めます。そのため、毎回テーマの中に必ずビジネスマナーやエチケットについての説明を入れるように努めています。

例えば2004年12月に行なった「ギフトギビング」では贈り物に関しての日本の習慣を説明したり、「食欲の秋」では箸の使い方やテーブルマナーを披露してきました。

プレゼンテーションが終わった後に回収する多くの評価表の中で温かい言葉や励ましのコメントを多く頂いた時、喜びと同時に改めてケンタッキー州で日本文化を紹介することの必要性を感じられずにはいられません。2年目の活動ではこのジャパニーズカルチャークラブを会員の方向けのみならず、図書館やコミュニティの場でも開催したいと考えています。

仕事面だけでなく、週末には月に数回行なわれるボランティア活動を通して日米の交流を深めてきました。ホームレスの方々に日用品や食料を渡したり、病院で入院患者の家族に夕食を提供したり、子供達と一緒に遊ん



着付のデモンストレーション



カプトをかぶってランチ

だりしています。この活動内でもできるだけ多くの方と話すように努め、会話の中に必ず「日本」という言葉を入れています。

出会う方々の中には以前、在日米軍基地に滞在したことがある人もいて、片言の日本語で「コンニチワ」や「ゲンキデスカ?」と返事してくれ、日本での滞在を懐かしく私に話してくれます。また折り鶴を折って出会う一人ひとりに手渡ししています。折り鶴を通して素晴らしい友達もでき、特に日本に対する知識が何もなかったメキシコ人の友人は、今では日本に関して文化やスポーツ、言葉等の様々な質問を投げかけてくるなど日本に対して好印象を持ってきています。

### ●将来へむけて

ケンタッキー州での活動も残り7ヶ月となった今、出来る限り一人でも多くの方に出会い、日本文化の素晴らしさを伝えたいと考えています。また後任者がよりいっそうケンタッキー日米協会の教育部門を発展させて頂く事を願っています。

帰国後もボランティア活動を通して日米との交流を図っていきたくです。

この一年、日本の家族をはじめ、数多くの友人の協力や励ましがなければケンタッキー州での国際交流活動は出来ませんでした。私をケンタッキー州に派遣して頂いた国際交流基金日米センター、ローラシアン協会、ケンタッキー日米協会のスタッフの方々、そしてこの1年で出会った数多くの方々に感謝すると共に残りの日々を大切に過ごしたいです。

### スーパーバイザーの声

This whole experience has been nothing but positive for both myself and the Japan/America Society of Kentucky. It definitely gives me more work and at times it can be very challenging, but positives far exceed negatives. Kumiko is dedicated and is proud of her work, and it has been a pleasure to have her here. Seeing her grow as a person through this experience makes me proud.

- Ms. Ayako Yamamoto (レポートより抜粋)

# 活動報告 8

第3期コーディネーター  
横野由起子——オクラホマ州タルサ

派遣期間	2004年8月－2006年7月
派遣先機関	タルサ・グローバル・アライアンス Tulsa Global Alliance 住所：2819 E. 10th Street, Tulsa, OK 74104 Tel：918-591-4750 URL：www.tulsaglobalalliance.org/  オクラホマ東アジア教育インスティテュート Oklahoma Institute for Teaching East Asia 住所：The University of Oklahoma-Schusterman Center, 4502 E. 41st Street, Tulsa, OK 74135 Tel：918-660-3498 URL：tulsagrad.ou.edu/okitea/index.htm
スーパーバイザー	Ms. Karen Schafer/ President and CEO of TGA Dr. Jessica Stowell/ Director, OKITEA
コーディネーター としての主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や図書館等での日本に関するプレゼンテーション</li> <li>・姉妹都市・府州交流</li> <li>・文化祭（キッズ・ワールド／アジア・アメリカン・フェスティバル等）</li> <li>・展示会（遊印家・池田耕治氏／国際交流基金所蔵日本人形展）</li> <li>・日本語クラス（ブッカーTワシントン高校）</li> </ul>

## ●きっかけ

JOIプログラムに参加する前は福島県立博物館で解説員をしておりました。またボランティアで日本語を教えていた事もあって、私のこうした経験がJOIプログラムで少しでもお役に立てられたら、また自分にとって素晴らしい経験になると考え応募しました。渡米前は初めてのアメリカ生活の事を考えると少々不安でしたが、関係者の皆さん、日本にいる家族や友達に助けられながらあっという間の1年が過ぎました。

## ●現地での活動

草の根交流活動をしていて嬉しいことはたくさんの笑顔に出会う事です。例えば昨年11月に3日間かけて開催された“KIDS WORLD 2004”という国際交流フェスティバルが挙げられます。2年に一度、派遣先であるタルサ・グローバル・アライアンス主催で開催されるもので約30ヶ国60の展示場とボランティアを含めて約2万5千人が集まる大イベントです。私は折り紙と日本の展示場を担当しました。来場者の中に私が以前プレゼンテーションをした学校の生徒達が出て、「由起子～！」と手を振ってくれたことには感激しました。彼らからもらった手紙は今でも私の宝物にな

## 2年間の流れ

### 2004年

- 春 東京オリエンテーション
- 夏 渡米  
夏季研修
- 秋 秋季研修  
キッズ・ワールド・フェスティバル
- 冬 日本語クラス  
学校等でのプレゼンテーション

### 2005年

- 春 姉妹都市交流  
アジア・アメリカン・フェスティバル  
学校等でのプレゼンテーション
- 夏 夏季研修  
姉妹都市交流  
日本語レッスン  
サマー・スクール  
図書館等でのプレゼンテーション
- 秋 姉妹府州都市交流（姉妹都市サミット等）  
各展示会（遊印家・池田耕治氏/国際交流基金所蔵日本人形展）  
学校等でのプレゼンテーション
- 冬 学校、美術館等でのプレゼンテーション

### 2006年

- 春
- 夏 帰国

っています。また引率の先生方にもっと日本について授業に取り入れて頂ける様にインディアナ大学の National Clearinghouse for U.S.-Japan Studiesの協力を得て「Teaching about Japan Information Packet」を用意しました。日本を授業に取り入れるノウハウを網羅した素晴らしい内容のものでフェスティバル開催前から話題になり多くの先生方に喜んで頂きました。他にもヒューストン在日本総領事館、日本大使館、Japan Information and Culture Center、Southeast Origami 他多くの方々の支援の下、大成功した形で終了することができました。

また今年10月下旬に4日間2005年姉妹都市サミットが開催され、タルサ市と世界8都市から集まった総勢延べ約3,500人が積極的に交流を深めました。主催であるタルサ・グローバル・アライアンスは2年の歳月をかけて準備に取り組み、私も姉妹都市関係にある栃木県宇都宮市の通訳を中心に手伝いました。あの国境を越えた深い交流の感動は一生忘れません。他に州内での日本の姉妹都市を挙げると、ショウニー市は秋田県仁賀保町と、スティルウォーター市は京都府亀岡市と、また今年9月1日に新しくノーマン市と京都府精華町が姉妹都市提携を結びました。そして州としては京都府と姉妹府州交流20周年を記念しており、オクラホマ州と日本各市町が更に相互理解を深め未来の平和に繋がっている喜びを感じます。

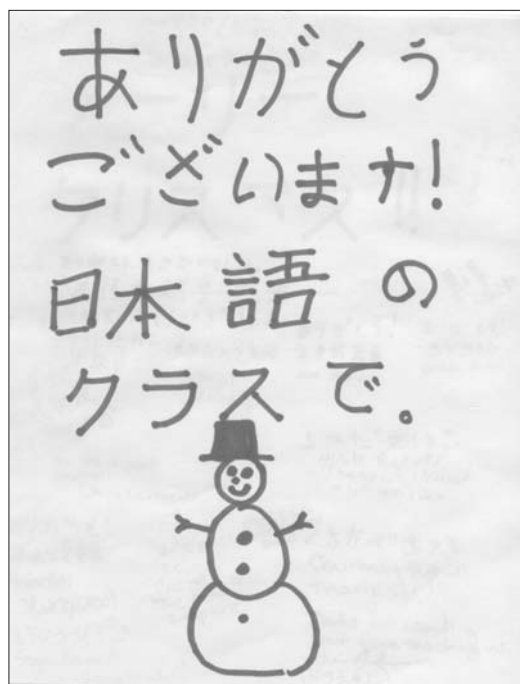
タルサ・グローバル・アライアンスは非営利ボランティア組織で、こう



プレゼンテーションをする著者

した姉妹都市交流や国際訪問者プログラム、「カルチャー・ボックス」、「グローバル・ユース・アライアンス」、「ヤング・アーティスト・コンテスト」など積極的に草の根レベルの国際理解を進める活動をしています。また他の国際組織と連携を保ち行政、ビジネスそして教育といった多方面で重要な役目を果たしており、そこからは学ぶことは多岐に及びます。

もう1つの派遣先であるオクラホマ東アジア教育インスティテュートはフリーマン・ファウンデーションの支援の下、「全米アジア教育協会」の支部として日本だけでなく中国、韓国そしてヴェトナムを中心とした東アジア地域についての必須且つ永続的なカリキュラムを取り入れてもらうために学校教師向けのワークショップや、方針に則ったアジア旅行、中国との姉妹校交流の支援活動を行なっています。代表のジェシカ・ストーウェル博士はアジアの知識はもちろん、オクラホマ州の教育基準に則った授業のノウハウを熟知している方なので、毎回私がプレゼンテーションをする時は親身に相談に乗ってくださいます。また最初の1年目はなるべく事前に学校訪問をしてそれぞれに合う教案を作るようにしていました。そしてプレゼンテーションの際よく用いるのは国際交流基金からお借りしている「Japan in a Suitcase」です。日本地図や大判写真カード、教科書等が中に入っていて、このスーツケース1つで日本の生活の様子が分かる様になっています。日本総領事館からお借りしている紙芝居セットも大好評で、これまで「桃太郎」や「一寸法師」等の話を披露してきました。また高等



子どもがくれた thank you レター



---

学校での日本語クラス、図書館での文化祭、サマー・スクール等の手伝いをする機会にも恵まれ、多くの交流を通じてオクラホマ州の方々が日本に高い関心を示してくださることに感謝する毎日です。

更に今年の9月には篆刻（遊印）家の池田耕治氏を招いての展示会及び講習会、11月には国際交流基金所蔵の日本人形展などを開催しており、機会を与えて下さる関係者の方々に感謝すると共に、オクラホマ州の方々に日本の芸術に触れて頂けて大変嬉しく思います。またこうした小さい積み重ねが日米交流の更なる発展に繋がればと期待しています。

### ●将来へむけて

JOIコーディネーターとしての任期もあと6ヶ月。オクラホマ州の皆さんに少しでも多く日本についての理解を深めて頂ける様、精一杯がんばります。プログラム終了後は日本語教師になりたいと考えておりますが、JOIプログラムで得た知識や経験、人の温かさは今後の私に大きな影響を与えるでしょう。

この場をお借りして日頃お世話になっているローラシアン協会、国際交流基金日米センター、日本総領事館、他の州でがんばっているコーディネーター、オクラホマ州や日本で私を支えて下さっている皆さんに心より感謝を申し上げます。

### スーパーバイザーの声

Yukiko is a great pleasure to have here and we appreciate her. I am already concerned about not having Yukiko here. We will miss her so much professionally and personally. She has added a delightful dimension to our program.

- Dr. Jessica Stowell (レポートより抜粋)

# コーディネーター募集要項

---

## ●選考スケジュール

- 10月中旬 募集開始
- 1月初旬 応募締切、一次選考（書類審査）
- 2月下旬 二次選考（筆記試験、面接試験）
- 3月上旬 内定者決定

## ●活動内容

- ・日本の文化・社会に関するプレゼンテーションや講義
- ・日本の慣習や行事にちなんだ「日本祭り」等の実施・アレンジ
- ・日本の伝統や現代に関する対話プログラムの実施・アレンジ
- ・現地と日本の交流関係づくりに関わること
- ・その他、派遣先地域での日米草の根交流の促進に関わること

## ●応募資格～こんな方を求めています

- ・活動に必要な英語力
- ・日本の文化・社会・日本語に対する知識
- ・スピーチ・プレゼンテーション能力
- ・大学卒業後、3年以上の実務経験
- ・自動車運転免許及び運転経験
- ・ワード・エクセル使用の経験

## ●募集概要

- ・派遣期間：2年間
- ・募集人数：若干名
- ・派遣地域：アメリカ合衆国（主に南部地域）
- ・待遇条件：当プログラム規定に基づき、往復航空運賃、現地での生活補助費等を支給
- ・選考方法：一次選考（書類審査）、二次選考（筆記試験、面接試験）

以上はあくまでも予定であり、変更の可能性があります。  
募集に関する詳細な情報は、ウェブサイトでご案内します。

国際交流基金日米センターウェブサイト

[www.jpf.go.jp/j/cgp\\_j/gr/joi/index.html](http://www.jpf.go.jp/j/cgp_j/gr/joi/index.html)

ローラシアン協会ウェブサイト

[www.laurasian.org/joi/](http://www.laurasian.org/joi/)

# ジャパンファウンデーション ボランティア制度

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）ではJOIの他にも、次のようなボランティアプログラムを実施しています。

## ●「日本研究客員教授派遣 JF ボランティア」プログラム

### ・概要

海外の日本研究を推進するために、海外の大学等の高等研究機関からの要請に基づいて、日本研究分野の専門家をボランティアとして派遣する

### ・お問合せ

日本研究・知的交流部 企画調整・米州課 JF ボランティア係

Tel : 03-5562-3526

## ●文化交流企画運営補助

### ・概要

海外の2 国間友好団体等において、日本との交流事業の企画運営業務の補助にあたる

### ・お問合せ

文化事業部 市民青少年交流課

Tel : 03-5562-3532

## ●海外日本語教育指導助手

### ・概要

海外の日本語教育機関において、ジャパンファウンデーション派遣日本語教育専門家の指導・支援を受けながら、日本語講座の授業を担当する

### ・お問合せ

日本語事業部 派遣助成課

Tel : 03-5562-3524

この他にも短期間のボランティアや、国内で行うボランティアもあります。詳細情報や最新情報については、ジャパンファウンデーション・ウェブサイトのボランティアに関するページ

[www.jpff.go.jp/j/volunteer\\_j/index.html](http://www.jpff.go.jp/j/volunteer_j/index.html) をご覧ください。



---

**アメリカへ 日本を伝える ボランティア  
日米草の根交流コーディネーター派遣プログラム  
Japan Outreach Initiative 第1期 - 第3期 活動報告**

---

**編集・発行**

独立行政法人国際交流基金(ジャパンファウンデーション)日米センター

〒107-6021 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル20階

Tel : 03-5562-3543 / Fax : 03-5562-3504

URL : [www.jpf.go.jp/j/cgp\\_j/](http://www.jpf.go.jp/j/cgp_j/)

2006年3月発行

©The Japan Foundation Center for Global Partnership

本報告書に盛られた見解はいずれも各執筆者個人のものであり、  
国際交流基金日米センターのものではありません。

本報告書をお読みになってのご意見、ご感想を、「JOI担当者」  
(CGPshimin@jpf.go.jp)にお寄せください。



**CGP**

The Japan Foundation  
Center for Global Partnership

アメリカへ 日本を伝える ボランティア

# 日米草の根交流コーディネーター 派遣プログラム

Japan Outreach Initiative 第1期-第3期 活動報告